

ちの未来を話し合おう

市民がつくる「むさしのエコ re ゾート」

エコプラザ（仮称）の正式名称が市民ワークショップを経て「むさしのエコ re ゾート」と決まり、

市民が互いに環境について学び、行動するための環境啓発施設として

11月に開館予定です。市民の皆さんと議論し、形づくってきた、

この新しい施設の特徴と魅力を紹介します。



令和2年1月時点。内装工事などと同時進行で憩いの場となる広い芝生などの外構工事が進んでいます。

地球の環境問題と
無関係な人はいません

今、世界のいたるところで気候変動による地球環境の悪化が問題となっています。国内でも、勢力が強い台風や猛暑日の増加、また今年の暖冬など、さまざまな形で私たちの暮らしに影響が出ています。

私たちの生活が持続可能であるためには、この地球課題にすべての人が関心を持ち、少しづつでも取り組むことが大切です。

市の環境啓発の拠点となる「むさしのエコ re ゾート（以下、エコ re ゾート）」は、新クリーンセンターの建て替えに際して、周辺地域に住む市民を中心とした同施設の施設周辺整備協議会の提案から始まりました。

市民の一人ひとりが「自分ごと」として環境に配慮した生活を続けるには、課題や対策を知るだけではなく、互いに学び、気づき、行動につなげていける場と機会が必要です。

エコ re ゾートでは、ごみと資源の問題だけでなく、緑、水循環、エネルギー、生物多様性など多様な環境問題について学びと行動を促せる場所になるよう、さまざまな取り組みと検討を進めています。

個々の取り組みをつなぎ 地域の取り組みへ

私たち

エコ re ゾートは環境問題を学べるだけではなく、個々の取り組みを地域やまち全体に発展させ、SDGs の達成に貢献し、人と自然が調和する環境都市「武蔵野」を目指していきます。

【SDGs（エスディージーズ）とは】世界が共通で取り組むべき 17 分野にわたる「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」のこと。平成 27 年の国連サミットで採択されました。



くらしの中の環境問題に触れて ともに語り合える場の提供

環境問題について学ぶには、進んで参加したくなる魅力的なプログラムやさまざまな人材が集い、議論できる場づくりが大切です。エコ re ゾートは市だけでなく市民団体、NPO、事業者などが連携し、「環境」に関する楽しい講座やイベントを継続的に実現できる場所になります。

連続講座「環境の学校」で学んだ中学生



水の量で考えると、牛肉を食べるため必要な水がとても多いことを学び、驚きました。（森分さん）



市やまちが、環境のためにいろんな工夫や取り組みをしていることを知りました。（二宮さん）

市民とつくりあげ ともに変わっていく施設に

環境問題や地球規模の課題は常に変わっていきます。そこでエコ re ゾートの運用や活動も進化・成長することを目指しています。その運営は市民・事業者などによる連携会議などで意見交換して、その時代のニーズに合った情報提供や学び、交流促進などを実現していきます。

「PR プロジェクト」に参加する高校生



広報活動を通じ、環境問題に詳しい人など、いろんな方に出会えることが楽しみです。（鈴木さん）



エコ re ゾートの広報活動は学生による「PR プロジェクト」で検討しています。



旧クリーンセンターのプラットホーム。エコ re ゾートを訪れた人に、市のごみ処理の歴史を感じさせてくれます。

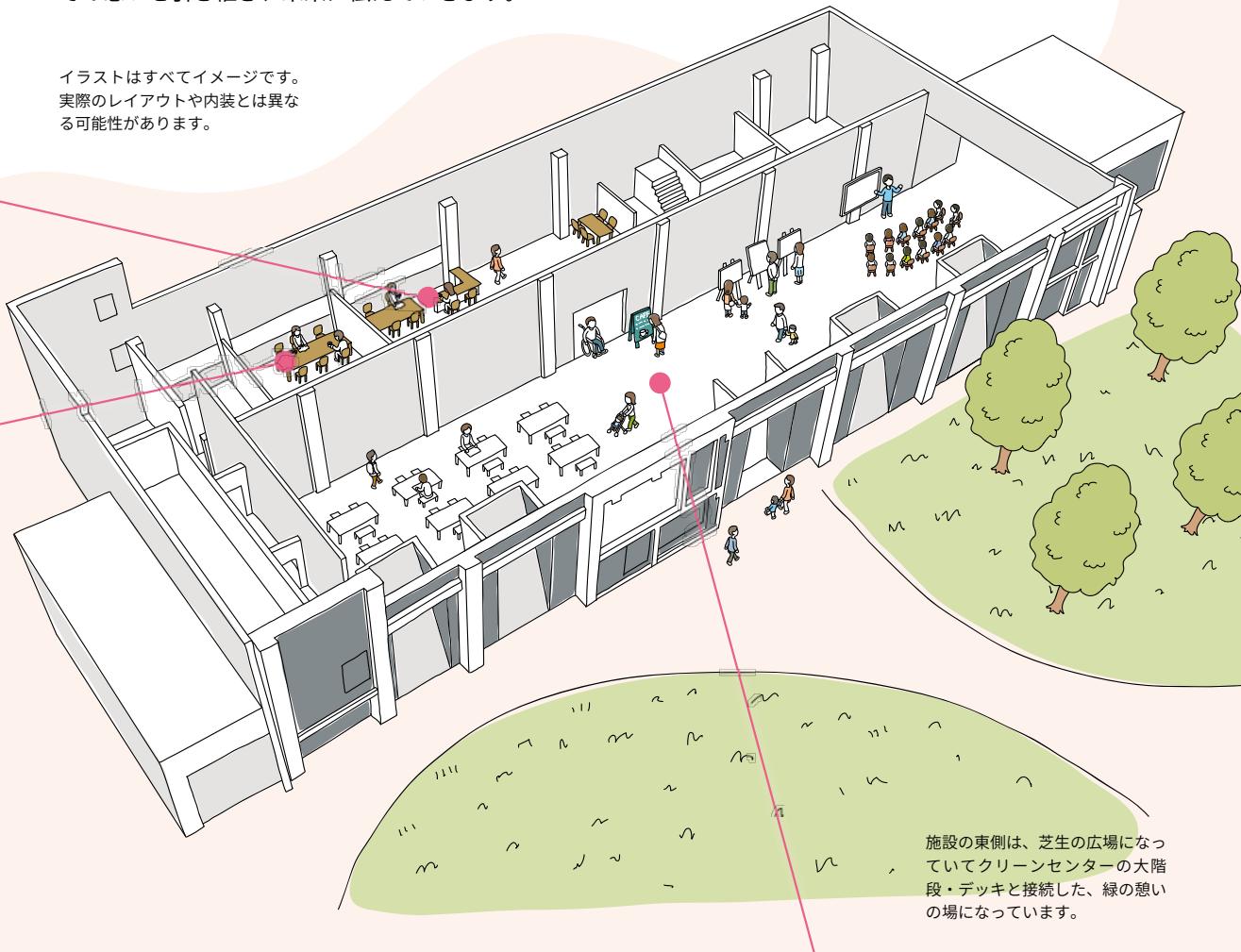


エコ re ゾートはクリーンセンターの敷地内にあり、旧クリーンセンターのプラットホームと事務所の建物を改修・再利用しています。

歴史を継承し未来の対話をつなぐ

エコ re ゾートの空間利用は連携会議でアイデア出しを行い、さまざまな意見を集めました。旧クリーンセンターの一部を再利用することで、これまでの市の環境への取り組みと歴史、その思いを引き継ぎ、未来に伝えていきます。

イラストはすべてイメージです。
実際のレイアウトや内装とは異なる可能性があります。



1階 プラットホーム

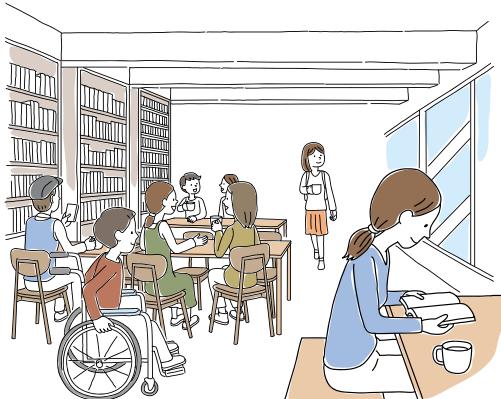


旧クリーンセンターの設備をそのまま生かした大空間

プラットホームはもともと、収集車が運び込んだごみをピットに投下する場所でした。高さ 8 m、奥行き 50 m、幅 15 m という他施設にあまりない大空間が特徴です。「フリーゾーン」と「ものづくり工房ゾーン」を設け、体験型イベントなどで環境を楽しく学べるよう活用します。

大きな空間は環境フェスタなどの催しに使えるほか、工房の存在によって、工作イベントや廃材を使ったアップサイクルなどといった幅広いプログラムを実施できます。

1階 コミュニティカフェ＆情報コーナー



小さな子のいる家庭も高齢者も誰もが気軽に足を運べる場所に

環境への関心がなくてもお茶やコーヒーを飲みながら過ごせるおしゃれなコミュニティカフェと、環境に関する情報コーナーを設けています。また、授乳室や多目的トイレなどバリアフリーな環境を整え、誰もが気軽に訪れて環境の情報に触れられる場をつくります。

カフェでは通常の利用のほかにも、環境に配慮したエコクッキングなど楽しいイベントも実施していく予定です。

1階 スタディルーム



課題に気づき、深く考えていく その過程を楽しむために

環境問題は、ただ難しく重苦しいものではありません。知ることで、新たな視点や気づきを持つことができる楽しさもあります。そうした学びと探求を深める活動ができるよう、講座やワークショップを実施しやすい学習スペースを設けています。

講座や打ち合わせなどに最適な多目的室です。立場や専門の異なる人々が集まって議論することが、新しい価値や手法を生み出すことにつながっていきます。

2階 アーカイブなど

環境啓発活動に役立つ 情報を提供します

2階のアーカイブでは、エコ re ゾートで展開する講座やイベントの情報を蓄積し、新たな活動に役立つ情報を提供できます。また、市の職員が2階に常駐して施設の管理・運営をします。

市民参加によるエコ re ゾートの検討の略歴

- 平成 21 年度 「新武藏野クリーンセンター（仮称）施設周辺整備協議会」を設置。
- 平成 24 年度 同協議会の第 2 期報告書で、全市民を対象とした環境啓発施設の考え方や機能について提言をまとめる。
- 平成 28 年度 有識者や市民などで構成された「エコプラザ（仮称）検討市民会議」を設置し、施設のあり方の検討が始まる。
- 平成 30 年度 同市民会議の「検討のまとめ」がまとめられ、施設の具体的な方向性や空間利用方法などが整理される。
- 平成 31 年（令和元年）度 施設の改修工事と外構工事が始まる。施設の運営に関する会議が設置される。
- 令和 2 年度 施設改修が終わり、11 月にオープン予定。

広がり始めた市民による学び合いの輪

施設の完成前からクリーンセンターを拠点に始まった連続講座「環境の学校」をきっかけに、環境について学んだ市民が、その後自主的に学び、情報発信する活動が芽生えています。

今と昔では常識が全然違います
学びで自分たちをアップデートすることが大切だし、
そこに昔の知恵も生かせたらいいですね



エシカル消費チームの佐藤さん（左）と新保さん（右）。

ささやかでも自分たちに できることを実行していきたい

エシカルは「倫理的」という意味で「生産者の顔が見える消費」をエシカル消費と呼びます。私たちエシカル消費チームはメンバー7人が協力して、多様な取り組みに挑戦しています。地元野菜を使ったレシピを考えたり、輸送コストについて勉強したり、市内で持参した器に盛り付けてくれるお店を調べたり。幅広く学んだことは、いずれ体験型の催しなどで発表する予定です。

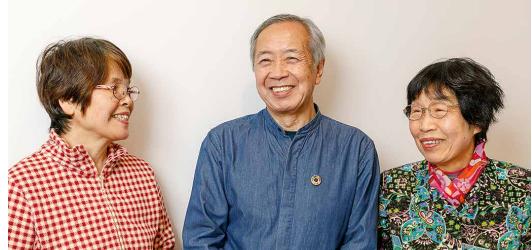
現代の課題は、昔の人たちがより良い世界にしようと取り組んできた結果であって、単純に過ちだったとは言えない難しさがあります。だからこそ、学ぶと発見があるし、きちんと向き合って考えたいという思いで活動しています。

仲間と学んだ生活の知恵を 楽しく広めていきたい

「環境の学校」の講座で、国内の食品ロスが約643万トン*もあり、その半分近くが家庭から出ると知って驚き、なぜだろうと思いました。私たちは6人で、食品ロスを減らすための買い物のコツ、冷蔵庫の中身を見る化する工夫、無駄が少ない調理法、お皿の洗い方、フードバンクの仕組みなどを調べ、一緒に学んでいます。

令和2年度には「まちで山ごはん」というイベント実施に挑戦。自分たちが学んだこと、皆さんにも知つてもらいたいことを伝え、楽しんでもらえるよう考えています。今後もまだやりたいイベントや活動があり、皆で挑戦してみたいと思います。

食品ロスを減らすには、実は買い物から
見直すことが大切！自分たちが学んだ気づきや
驚きをほかの皆さんとも共有したいですね



食品ロスチームの前田さん（左）、深野さん（中央）、小山さん（右）。

*環境省／平成31年4月発表

皆さんと
成長し続ける
環境啓発施設へ

「環境」に難しそうな印象を持つ方、あまり興味がないという方も多いのではないかでしょうか。11月に開館する「むさしのエコ reゾート」は、これまで環境に関する活動をしてきた方も、そうでない方も、関係性を築いていく場になることを目指し、多くの市民の方と連携して準備を進めています。今は興味がなくとも、ふとしたきっかけで施設を訪れたときには、さまざまな出会いを通じて、一人ひとりが「環境」を考えることができます。できる施設にしていきますので、開館後にぜひお越しください。

山村 宜之さん
環境政策課

